平成２４年度厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等克服研究事業
「小児期からの消化器系希少難治性疾患群の包括的調査研究とシームレスなガイドライン作成」

「腹部リンパ管腫及び関連疾患」分担研究班
平成２４年度　第二回班会議
議事録

平成 24 年 9 月 21 日　18:30～20:30
於　慶應義塾大学医学部
臨床研究棟 1 階ラウンジ

☆　参加者
上野、岩中、木村、住江、木下、藤野（6 名）

☆　議題

１，第一回会議議事録確認
前回議事録をスライドにて確認した。特に異論はなし。

２，進捗状況確認～計画見直し

・藤野より配付資料の説明。（データの見方、及び重症・難治性度診断基準作成のための全国調査の統計による難治性度基準の説明）

・Endpoint をしっかり考えて研究を進めるべきであり、そこを間違うとあまり意味をなさないだろう（岩中）。

・興味深い腹部のリンパ管腫に関する治療経験（angiosarcoma、京都の ope 症例等）

・最終的に治療ガイドラインのようなものを作るに当たり、meta-analysis のようなことは出来ないだろう。作り方もよく検討すべきである。

・治療 strategy の recommendation などについても、症例を分類するために重症度・難治性の基準が必要となるだろう。

・そのために、腹部リンパ管腫について、既存のデータ（238 症例）を用いて重症・難治性度診断基準を作成してみる。

・それを元にデータを再度見直してみる。

・その上で、どの範囲の症例を対象にするかはまだ分からないが（難治性と診断された症例のみか、238 例全部か等）、二次調査を行って問題への解答を得る。

・文献サーチ by 木下 Dr.　（プリント資料配布）
　keyword を lymphangioma, abdominal として 500 件サーチ。
　腹部のみの検討論文は非常に少ない。硬化療法の報告はみられなかった。
　後腹膜、骨盤等他の keyword もサーチしてみる必要あり。

・胎児診断の有用性について
　臨床的には、胎児期に診断されたリンパ管腫に対する出生前診断の特別な有用性はないように思われた。（頚部症例では出産法などの選択に影響あり。
　現在のデータ、二次調査結果より、胎児診断症例をピックアップしてから、もう一度検討する。

4，今後の予定

・ 次回会議予定

11 月 3 日（土）時間未定　於静岡

（日本小児外科学会秋季シンポジウムに合わせて行う。）

（配布資料）

1， 予備調査調査票（2009 年予備調査）
2， 予備調査結果（予備調査結果）
3， 重症・難治性度診断基準設定のための全国調査（症例入力１～５）
4， まとめ（腹部 20120814）
5， 田口班第１回班会議（2012.7．16）
6， 文献サーチ結果（pubmed）（木下 Dr.持参）

尚、今後資料については Dropbox を利用してファイルを共有出来るようにする予定である。

以上

平成 24 年 9 月 24 日

慶應義塾大学医学部　小児外科
藤野　明浩